

CAVE STREET 線上の余白 -スラム街の日常に根付く避難タワー及び避難経路の提案-  
CAVE STREET Margins on the line - Proposal for evacuation towers and evacuation routes that take root in the daily life of slums -

研究室名 六角美瑠研究室 氏名 仁昌寺天心

研究概要：

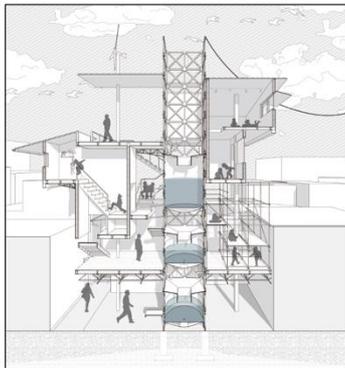
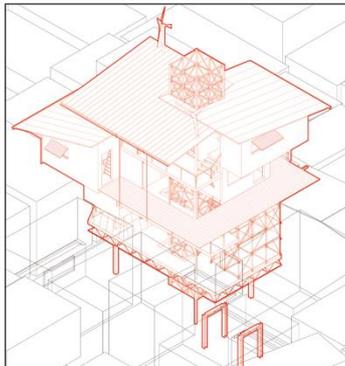
私の出身地であるフィリピンのスラム街に、避難タワーを3つ設計し、さらに避難タワーまでの避難経路を計画した。

研究目的：

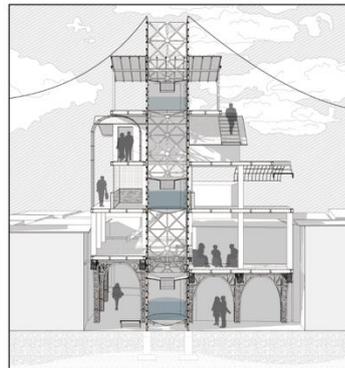
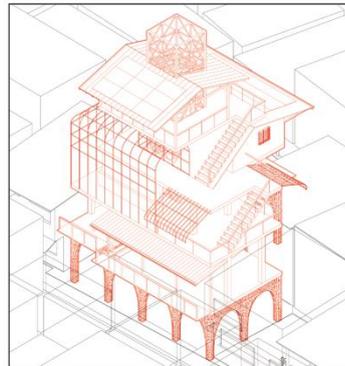
逃げ場の無いスラム街かつ、避難意識の希薄な住人に対し、日常的機能を付加した避難タワーが日常生活へと介入することで、避難意識が定着していくことを目的とした。

研究成果：

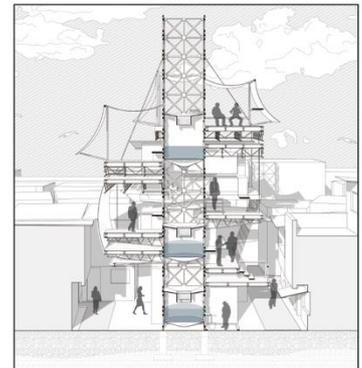
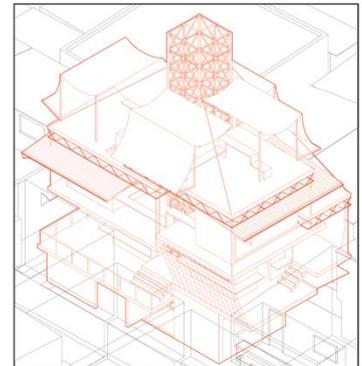
site1: 避難タワー x 子供の溜まり場



site2: 避難タワー x 集会所



site3: 避難タワー x マーケット



これら避難タワーはスラム街の要素が建築のパーツへと変換され、これまでとは異なる意味を持ってタワーへと構成される。site1の避難タワーには子供の溜まり場となる機能を付加した。スラム街の子供の遊び場が無いことから、単管パイプがジャングルジムへとスラム街の要素を遊具的機能へと変換させ、災害時には子供達が真っ先に避難できるタワーとした。site2ではキリスト教徒の多いフィリピン人にとって欠かせない教会などを含んだ集会所の機能を付加した。site3では道に連立する小規模な店舗がタワー内まで延長するように伸びたマーケット機能を付加した避難タワーを設計した。以上の日常的機能を持った避難タワーがスラム街の日常に根付き、災害時には避難拠点となる。

苦労した点や感想など：

設計が難航し、予定通りに進まないこともありましたが、結果的にスラム街の住人にとって自然災害から命を守る兆しとなる提案ができたと自負しています。